

第1回大分大学教員評価結果(平成19年度実施)について

国立大学法人大分大学では、平成19年度に、大分大学教員を対象とした『大学教員評価』を実施しました。評価の概要は、次のとおりです。

【大学教員評価が目的としていること】

- (1) 大学教員個人の教育研究活動等の質的向上を図ります。
- (2) 大分大学の役割を強化する取組に、積極的に関与することを促します。
- (3) 大分大学教員の教育研究活動等の状況を、社会に公表することによって、大学としての説明責任を果たします。

【対象年度】

平成16年度から平成18年度の3年間に係る大分大学教員の教育研究活動等について、評価しました。

【対象者】

大分大学教員(教授、准教授、専任の講師、助教、助手)のうちで平成20年1月1日に在籍する475名を対象に実施しました。ただし、1年未満在籍者、定年退職予定者等は除きます。

【領域】

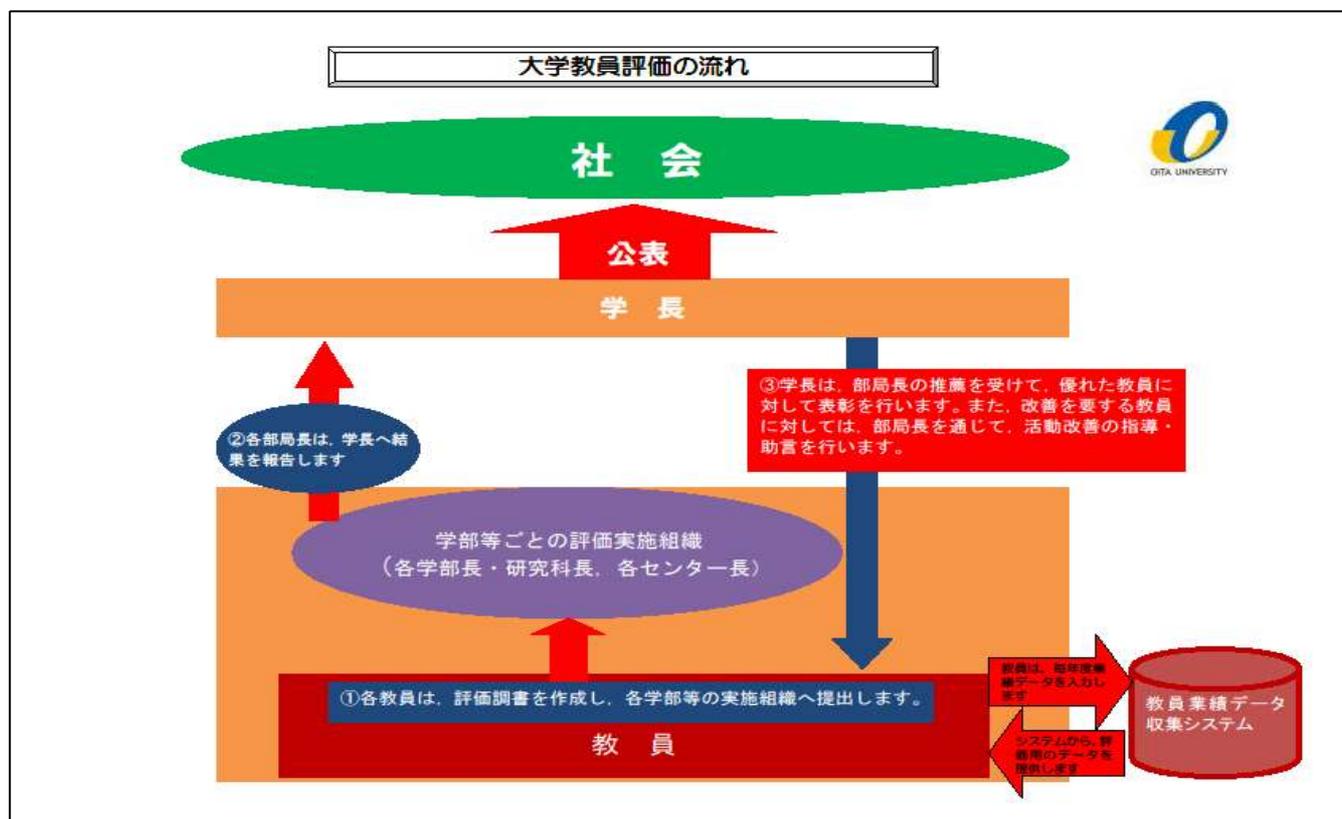
「教育活動」、「研究活動」、「社会貢献活動」、「管理運営活動」、「診療活動」の5領域としています。ただし、診療を行わない部局については、「診療活動」を除く4領域です。

【評価結果】

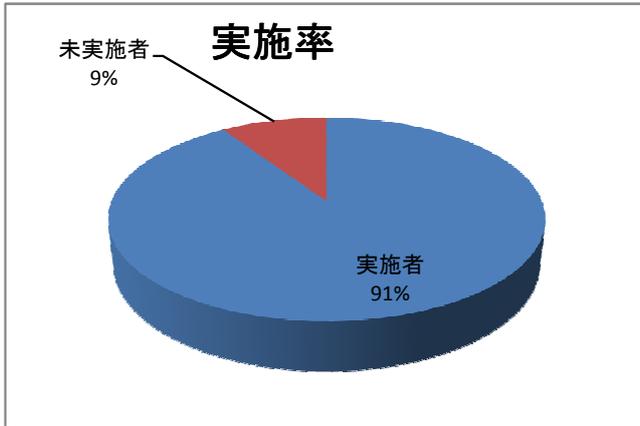
各学部・センター等の教員については、各教員の能力や特性に応じた活動を行っており、総合評価結果(図2)のとおり、「特に優れている」教員が全体の56.5%、「水準を上回っている」教員が全体の35.6%であり、これらを合計して、「水準を上回って」活動する教員は、全体の90%を超えることが明らかになりました。

なお、「やや問題があり改善の余地がある」に該当する0.9%の教員、及び「問題があり改善を要する」に該当する0.2%の教員については、その事情を精査し、必要な場合は、学長から部局長を通じて活動改善のための指示が出されることになっています。

今後、今回の評価結果について検証を十分に行い、次回の評価へ向けて改善を行うこととしています。

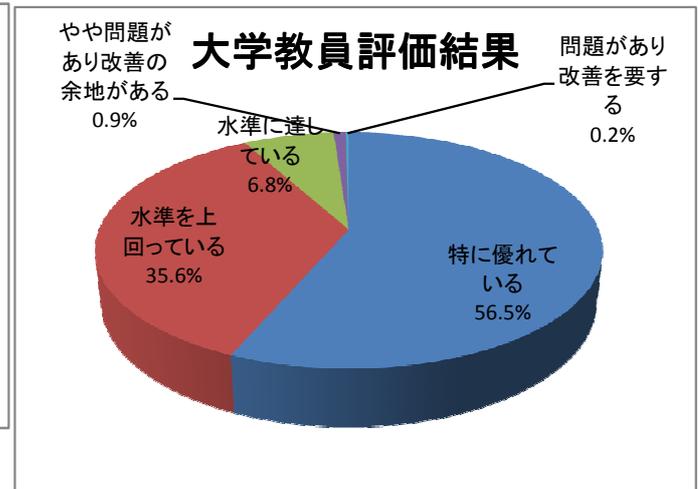


(図1)



未実施者の措置については、今後検討し、100%の実施率を目指します。

(図2)



【注意】

大学教員評価の対象には、附属学校園の教員は含みません。(附属学校園の教員評価は別に実施中です。)